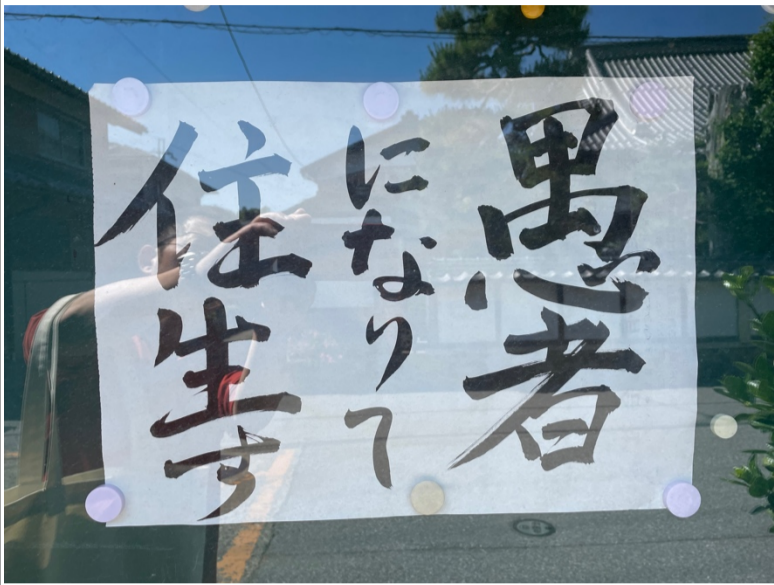


## 半年ぶりにお講をお勤め

コロナ感染の再拡大を受けて、昨年十二月から休止していたお講を半年ぶりに再開し、楽しくお勤めすることができました。字の行事も中止が続いていたので、どうしたものかと思っていました。ですが、グラウンドゴルフなど、少しずつ再開されている様子を伺いましたので、会長の安居博さんとも相談の上、時間短縮でお勤めしました。「みなさんお久しぶりー」といいながら、楽しいひとときを過ごすことができました。なお、二月に、もと会員の馬場芳江さんがご往生されたことから、正信偈の勤行の際にお焼香をして芳江さんを偈びました。



それにしても、ようやくコロナ感染症の感染が落ち着いてきたようです。あれもダメこれもダメという閉塞感から開放されてちょっと一息といった感じです。とはいえ、人と接する場所ではまだまだマスクは欠かせないようです。成美記念クリニックの安食元先生が、「終わらなかったパンデミックはない。いつか必ずコロナはおさまります」と言っておられました。あと少し、それぞれ対策を講じてコロナ禍を乗り切りましょう。

前任職の一周忌を、安正寺ご住職のお導師のもと、家族と親族でお勤めしました。あつという間の一年。親鸞聖人は自らを「愚禿(ぐとく)・愚かな丸坊主」と名乗られ、「こんな私でも阿弥陀様は救い取ってくださる」とおっしゃられました。亡くなる時は、地位も財産も何の役にも立たず、そのままの愚かな私があるばかり。前任職もまさに愚者を地でいく人生でした。そしてその生きざまを通して、私たちに、ナモアミダブツのご恩を伝えてくれたのだと思います。(住職)

六月 水無月

一五〇(土) お講 十一時

山科二十五口講  
専光寺(役員さん)

七月 予告

七月二日(日) 十三時

秋季永代経・平和の集い

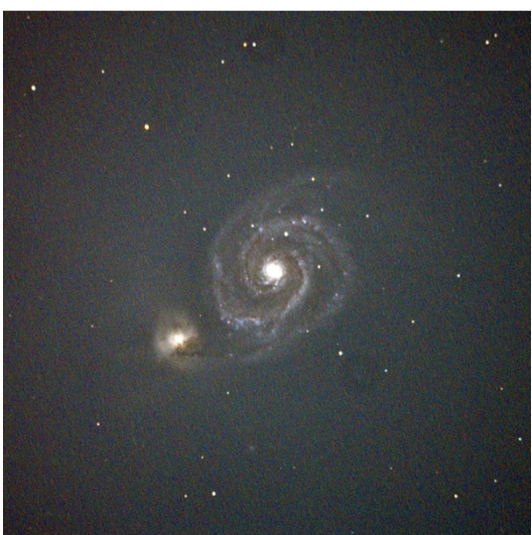
前任職を偈ぶ会

一乗寺の住職代務をお引き受けすることになりました

四月に住職が亡くなられた三ツ池の一乗寺の住職の代務をお引き受けすることになりました。住職が亡くなられた場合、次の住職が決まるまでの間、住職の代行を置く必要があります。坊主様からご依頼があり、覚浄寺の住職の仕事すら十分にできていないのに、別のお寺の仕事が務まるのか不安ではありますが、亡くなられた谷口住職は同級生ですし、犬上南組の組長さんからも要請されたため、お引き受けすることにしました。具体的には法事やお葬式、法要にお参りすることになります。覚浄寺、一乗寺どちらのご門徒にも、できる限りご迷惑をお掛けすることがないようにしたいと思います。ですが、法事などは早めに日程などのご相談をお願いします。

宇宙の神秘と阿弥陀さま

正信偈に「五劫思惟之摂受(ごごうしゆいししよじゆ)」という言葉が出てきます。一つの宇宙が生まれて死ぬまでを一劫と言います。他にも二百年に一度、天女が羽衣で大岩をさつと撫でて、岩がすり減って無くなった一劫など、いろいろな例えがあります。いずれにしても気が遠くなるほどの長い年月を表します。「寿限無寿限無 五劫の擦り切れ・・・」という落語もありますね。阿弥陀さまは、法蔵菩薩であったとき、五劫という長い長い間修行され、阿弥陀という仏様になられたのだそうです。私たちの短い人生で得た知識など足元にも及びません。そんなことを思いながら、ぜひ星空を見上げてみてください。夏の星座がキラキラ輝いていますよ。(左の写真は四〇年ぶりに天文少年に戻った住職が撮影した子連れ銀河です)



### 世のなか 安穏なれ



